吉田光由が「塵劫記」を著した

寛永４年（1627）に刊行された「塵劫記」は、わり算（帰除法）かけ算（尾乗法）の計算のしかたがそろばんによる図解で説明されており、米の売買、絹・木綿の売買、両替、貢租、検地などこの時代の商人や武士に必要な計算問題を豊富に取り入れ、遊戯問題も加えてあって、この本はたちまち人気を呼んで何度も出版されました。「塵劫記」と名付けた本は、江戸時代を通じて400種以上も出版されました。

開平・開立の計算法が研究されはじめた

数学が研究されるようになり、面積、体積の問題から、開平、開立の計算法がいろいろ研究されはじめました。

開平	倍根法	竪亥録	(1639)	参両録	(1653)
		新編諸算記	(1641)	改算記	(1659)
		算学稽古大全	(1806)		
	倍根法（根を２倍）	算俎	(1663)	広用算法大全	(1825)
	半九九法	算元記	(1657)	算法童子問	(1784)
		算法新書	(1833)		
開立	$3a^2$法	竪亥録	(1639)	新編諸算記	(1641)
		改算記	(1659)	算学稽古大全	(1806)
	3a 法	広用算法大全	(1825)		
	三分九九法	算元記	(1657)	算法便覧	(1824)